

第6回茅野市総合計画審議会会議結果報告書

会議の名称	第6回茅野市総合計画審議会		
開催日時	平成29年10月24日(火) 18時30分～20時40分		
開催場所	茅野市役所 議会棟3階 全員協議会室		
公開・非公開の別	公開	・ 非公開	傍聴者の数 0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
	<p>○議事</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 市民プランの総括について(資料1)</p> <p>(2) 第2回第5次茅野市総合計画策定全体ミーティングの概要について(資料2)</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 目指すべき将来像について(資料3)</p> <p>(2) 基本理念について(資料4)</p> <p>(3) 将来展望人口について(資料5)</p> <p>(4) 総合計画の推進と進行管理について(資料6)</p> <p>5 その他</p> <p>次回会議日程 第7回:11月28日(火) 午後6時30分</p> <p>6 閉会</p> <p>○議事録</p>		
樋口副市長	<p>1 開会</p> <p>当初昨日の開催を予定していたが、台風の影響により本日に延期したことで、ご迷惑をおかけした。本日もご審議のほど、よろしくお願ひしたい。</p>		
会長	<p>2 会長挨拶</p> <p>10/5の全体ミーティングにおいて、審議会で候補とした目指すべき将来像についての検討が行われた。将来像については概ねご理解いただいたという感触を持った。本日は議事が多いが、よろしくお願ひしたい。</p>		
事務局	<p>3 報告事項</p> <p>(1) 市民プランの総括について</p> <p>・・・資料1に基づき説明・・・</p>		
会長	<p>大変膨大な資料で全てには目が通せないと思うが、意見・質問は。</p>		
委員	<p>細施策編は306ページもあるが、これは、市で行っている事業のすべてが網羅されているという解釈でよいか。</p>		
事務局	<p>市の取組みの全てとなる。毎年市民プランの進行管理を行い、見直してきた結果がこの資料である。</p>		

会長	第5次総合計画の進行管理は、この審議会を引き継いでいく事になる。
事務局	(2) 第2回第5次茅野市総合計画策定全体ミーティングの概要について ・・・資料2に基づき説明・・・
会長	将来像(案)として、全体ミーティングで意見をいただいた。考え方として、総合計画の将来像とは将来のあるべき姿であり、キャッチフレーズではないという事がポイントとなる。全体的には、現在の将来像候補でよいのではないかという意見が多かった。 全体ミーティングについての意見・質問は。 (意見・質問なし)
事務局	4 協議事項 (1) 目指すべき将来像について (資料3) ・・・資料3に基づき説明・・・
事務局	本日欠席の委員よりメールにて意見をいただいている。 「現在、茅野市はパートナーシップの行政手法を掲げ、官民協働で市政を進めているが、今後は民協働もしていかななくては市民生活が立ち行かなくなる。となると『やさしさ』という言葉ではあまりに抽象的で、何を指しているのか分かりにくい。そこで、パートナーシップの基本と思われる『支えあい』の言葉を用いて、『支えあい 活力のあるまちへ』というキーワードを提案したい。」
会長	全体ミーティングでは、「将来像の解説部分である『将来像に込めた思い』や『それぞれ言葉に込められた意味』は、将来像と共に掲げてもらいたい」という意見があった。また、『将来像へ込めた思い』の言葉使いを検討してもらいたい」との意見があった。
委員	本来、将来像とは、優先順位や何を重んじるかが感じられるものであるべきだと考えるが、改めて将来像候補を見ると「変わらない」「普遍」といった印象であり、何に力を入れようとしているかが感じられない。 『それぞれ言葉に込められた意味』ではキーワードが書かれているが、「活力」だけやるべきことを書かれている。「活力」もフワッとしたほうが、他の表現とのバランスとしてはいいのではないかと。 改めて何に力を入れていくかを考えたとき、この時代に必要だと思うのは学校教育環境改革が大事だと考えているが、この将来像や補足説明部分からは拾えない。学校改革は専門家に任せるのではなく、市民が一丸となってやるようにと国もいっているが、後押しがなければ進まない。後押しが必要なものや、今まで力が足りなかったところに力を加えるためには、フレーズに入れ込むべきである。今の将来像候補では、後押し感がなく、戦略にもなっていない。
会長	学校教育環境改革のイメージについて、事務局の考えは。

事務局	「人」という「言葉に込められた意味」の中のひとづくりが教育部分にあたる。
委員	「八ヶ岳の自然」について、茅野市の誇れる象徴という意味だと書かれているが、ここには自然環境の保全は含まれるのか。
事務局	言葉の中には茅野市の誇れる自然を守り、将来へ継承し自然を活かしていくという意味も込められている。
委員	八ヶ岳の自然を誇れる象徴とする理由を明記した方がいいのではないか。
会長	『それぞれの言葉に込められた意味』への、教育や自然環境保全に関する付け加えは可能か。
事務局	この資料はまだ箇条書き程度である。いただいた意見を踏まえ、丁寧な解説文を作成していきたい。
会長	先ほどの深澤委員からの意見に『やさしさではなく、 <u>支えあい</u> が良いのではないか』とあった。「支えあい」も大事だが、「やさしさ」は都市基盤分野では色々な人に優しい都市基盤づくりというイメージにつながる。『支えあい』は、将来像を具体化する政策などにおけるフレーズとするのがよいのではないか。環境についても同様である。皆さんの意見もいただきたい。
委員	会長と同感である。「やさしさ」と「支えあい」の言葉のイメージ・響きを比較すると、「やさしさ」の方が基本であり、「やさしさ」があってその上に「支えあい」がある。根底的な意味合いは、「やさしさ」の方が強いので、将来像のフレーズとしては「やさしさ」の方がいいのではないか。
委員	「やさしさ」の込められた意味の中に人が生きていく為に必要な「自立」「自立を支える」と入れることで、教育分野をカバーできるのではないか。
会長	事務局、加味は可能か。
事務局	本日示した将来像は、最終的には基本構想で文章にまとめ、その中にいただいた意見を含め、込められた意味について解説をさせていただきたい。
委員	キャッチフレーズではないという事にハッとした。これが多くの市民の反応であり、将来像は目的だと気付く市民は少ないと思う。 『将来像に込めた思い』や『それぞれの言葉に込められた意味』は読んでもよく分からない。そもそも読まない市民もかなりいるのではないかと思うが、市民が読んだときに分かりやすい説明文にしてほしい。 また「こども」がどの部分に含まれるかをわかるような文章にしてほしい。
会長	全体ミーティングでも同様の意見があった。 『将来像に込めた思い』や『それぞれの言葉に込められた意味』は重要な内

	<p>容である。事務局で慎重に拾い、色々な計画に反映されるようにしていただきたい。</p> <p>今まで将来像の候補としてきたが、他の計画にも連動しているため、上の部分については本日皆さんに承認をいただきたいがいかがか。</p>
委員一同	(異論なし)
会長	<p>本日も承認いただきました。</p> <p>説明文については、事務局で検討をしていただきたい。</p>
事務局	<p>(2) 基本理念について(資料4)</p> <p>・・・資料4に基づき説明・・・</p>
会長	<p>基本理念は市民憲章を踏襲するという考え方になるかと思うが、その件について意見・質問は。</p>
委員	<p>市民憲章と同じなら、基本理念は要らないのではないか。激変する状況変化の中で基本理念が変わらない、戦略が変わらない、重点項目が変わらない。ならば基本理念を作らなくてもいいのではないか。どこを重点的とするか戦略を練りましょうという課題意識があり、優先順位的なところがキャッチフレーズや目標となる。何でも昔からのものを継続していくのなら、つくらなくてもいいという考え方もあるが、それでは〇次計画としている意味が無い。どこに力を入れればいいのか迷うことで、指標やビジョンが描けるのではないか。結局これでは何をやっていけばいいのか分からない。残念である。</p>
事務局	<p>基本理念についてはこのまちがある限り、市民憲章の内容は普遍的であると思っている。</p> <p>先ほどの将来像については抽象的にはなるが、まちの目指す姿として位置づけをさせていただく。</p>
会長	<p>この35年、会議前の市民憲章唱和を違和感なく度々おこなってきた。個人的に好きなフレーズもあり、将来像に活かしたいという考えもあった。市民憲章のひとつでも欠けたら、まちは成り立たない。とても昭和57年に作られたとは思えないが、唯一古く感じるのは「青年都市」に違和感がある。精神としてはとてもいいと個人的には思っている。重点項目がないと言われればそうかもしれないが、茅野市はこれで歩んできたという証でもある。</p> <p>基本理念について意見・質問は。</p>
委員	<p>市民憲章を基本理念とするのは良いと思う。市民憲章5項目と将来像が、言葉としてかなりの部分で一致しており、違和感はなく問題もないと思う。</p> <p>重点項目については、例えば人口減少で予算が減り財政が厳しくなれば、時代環境を鑑みて必然的に重点化施策をやらざるを得ない。運用や予算付けの場面で、施策の重点化を行っていけばどうか。</p>
柿澤企画部長	<p>市民憲章には市民の普遍的な願いが込められている。それを将来像の中にどう落とし込むか。第3次総合計画までで社会基盤がある程度整い、まち</p>

	<p>が成熟化してきた。ソフト面のまちづくりを進める中で、政策間のバランスが取れてきたために市民憲章の様々な分野と将来像がリンクし、それぞれの分野に配慮したような形で将来像がまとまったと考えている。</p>
会長	<p>基本理念は同意いただいたという事でよろしいか。</p>
委員一同	<p>(異議なし)</p>
事務局	<p>(3) 将来展望人口について (資料 5) ・ ・ ・ 資料 5 に基づき説明 ・ ・ ・ (1 : 26 : 50)</p>
会長	<p>まず質問からいただきたい。</p>
委員	<p>2022 年度の将来展望人口 55,000 人という前提は 5 次総のどこに関係してくるのか。</p>
事務局	<p>基本構想の大きな目標の位置づけとなる。設定した将来展望人口に向けて各分野の政策も展開をして、目標人口の達成に向けて取組をしていくという組立てを考えている。</p>
会長	<p>各施策にも影響してくる面もある。</p>
事務局	<p>例えば、少子化対策、団塊世代の高齢化への対応、健康づくり、健康寿命の取組について、こうした推計を踏まえて、実施の検討をしていく。</p>
柿澤企画部長	<p>人口減少傾向を政策によって抑制するために、出生数増には“子育て政策”に力を、移住・定住といった転入対策にも力を入れる必要がある。将来展望人口は、そういった政策の指標となる。</p>
会長	<p>前回推計と今回推計の差について。茅野市は 2060 年には高齢者の割合が前回推計よりも高くなっているが、それは移住・定住者が高齢者と仮定してのイメージか。</p> <p>また、現状推計の人口と、将来展望の人口の見方の違いの中で、出生率を 2.07 にすることで差を設けていると思うが、今の出生率は 1.6 位のレベルであり、様々な施策で 1.6 を 2.07 へと上げる事を前提としているのか。</p>
事務局	<p>平成 22 年の国調をベースに推計した結果と、平成 27 年の国調をベースにした結果の差が表れた。具体的には H22～H27 の 5 年間に転入された方の割合は高齢人口が多かった。それを基に推計すると、H22 の数値よりも H27 の高齢化率が高くなった。</p> <p>出生の関係は、自然増と社会増の取組によって、現状推計よりも展望人口が上振れした。合計特殊出生率は現在 1.6 程度であるがそれを段階的に改善し 2060 年には人口維持水準の 2.07 に持っていきたい。</p>
委員	<p>目標数値の表は理解しにくい部分もある。</p> <p>5 次総には直接関係ないが、若い人の移住・定住、婚活事業や出生率が上がる為の政策を、取り入れていただきたい。</p>

事務局	<p>婚活事業は非常に大切な取組みと考えている。今後検討していきたい。 安定した仕事に就き、結婚し、安定した収入の中で子育てをしていく事が大きなポイントと考えている。仕事の確保を重点的な取組みとして、子育て環境の充実を図っていきたい。</p>
会長	<p>将来展望人口について意見は。</p>
委員	<p>P9『(3)「①現状推計人口」と「②将来展望人口」の比較(今回推計)の、○老年人口の…』は政策提言であり、人口推計とは関係がないため載せない方がいい。 P9『イ、生産年齢人口の増加に向けた取組がポイント』については、人口推計がどういう計算に基づいたかというレポートであるため、政策提言の誘導的なところは入れない方がいい。</p>
事務局	<p>今回は審議会用資料として細かい情報提供をさせていただいた。基本構想の資料には将来展望人口設定や、設定した人口に対して世帯数がどの様に推移していくか、年齢3区分がどの様になっていくのかといった資料を中心に落とし込み、詳細については省略をする。</p>
委員	<p>この数字は目標設定であるため正解かどうかは難しいところだが、水準が非常にアグレッシブであるという印象を受けた。おそらく現状推計人口は成り行きベースのもので、施策実行ベースというのは将来展望人口だと思うが、この施策を相当アグレッシブなものやっつけていかないとこの数字は達成できないだろうと思う。逆に現実的な数字を入れる判断もあると思うが、この数字は高いという認識は持つべきである。</p>
事務局	<p>おっしゃる通りである。前回推計はH22国調の推計であるが、実際のところH27は上振れした。これは政策的な取組による効果であると捉えている。現在の取組をしても今回推計は下がっていくが、政策の上積みをして上振れさせるのが、将来展望人口である。非常に厳しい目標設定をしているが、人口減少に立ち向かうという視点からの設定である。</p>
会長	<p>4次総の時には前提条件で58,000、現在が55,800である。この計画が終わる辺りで54,200とすると、目標値としては懸命に取り組めば可能かもしれない。途中で進行管理や施策の打ち直しもあり、計画としての違和感はないと思う。</p>
委員	<p>現在の人口よりも多く設定することはできないのか。自然死が増加し、実際には難しいとは思いますが、目標であるなら高く設定したらどうか。</p>
事務局	<p>ご意見として参考とさせていただきたい。</p>
委員	<p>最終的な積分値を目標人口とするのではなく、各ファクターの係数が上向くといった数値はどうか。例えば茅野市の出生率が上がる、都市部からの流入人口が増える、外国人の定着数が増えるなど、トータルではなく個々の係数が上向くとした方が、目標も立てやすいのではないかと。</p>

事務局	H27 策定の総合戦略では転入者数や子どもの数を、将来展望人口を基に詳細に上振れするような数値目標を立て、取組を進めている。個別計画の中に具体的な数値の落とし込みをしていきたい。
委員	個別計画全体に関わる部分で、個々のデータを提示した方が参考になり、考えやすいたたき台の資料になるのではないか。
委員	何も行わなかった場合の数値と、各政策の積み上げにより自然減や社会減をどれだけ抑えられるかという数値は出せないか。結果的に数値が上がらなかった場合には検証も必要である。また非現実的な数値ではなく、具体的な方がいいと思う。
事務局	今回は大枠的な目標を立てた。社会増減については目標を立てる中で目標に対して施策を打っていく考え方であり、現段階では個々の取組による増減は想定していない。
柿澤企画部長	将来的な出生率 2.07 は確かに高いが、国の地方創生総合戦略で国全体の合計特殊出生率を 2.07 としている。出生率は自治体だけではなく国の制度改革と相まって国の政策、働き方改革などに、自治体がどう上乗せして 2.07 に近づけるか。 社会増については、都会へ行った人をどうやって地方へ呼び戻すかという点が、自治体の大きな役割であり、責任となる。
事務局	国の総合戦略では現在の合計特殊出生率 1.4 を 2030 年までに 1.8 に上げ、2040 年までに 2.07 まで上げるという目標であるが、現実的ではない。 茅野市では H27 に総合戦略を作る際に、国の立てた目標よりも 20 年先、2060 年までに合計特殊出生率 2.07 に向けて上昇するという条件を設定した。
会長	様々な施策が人口減少を留めるという考え方でいいか。
委員	つい先ほど茅野市民憲章が基本的な理念だと話したばかりだが、「未来に羽ばたく青年都市」とは思えない議論になっている。 未来に向かって 10 年先を見据え、茅野市が諏訪 6 市町村をリードしていくという自覚を持って施策を打つ必要がある。こういった計画で現実的な数字を発表した市町村は、確実に減少している。 茅野市には大学、企業、自然、住居環境は余裕があり、諏訪 6 市町村をリードできる要素が数多くある。努力すれば可能性があるのに現実ばかりを見て数値を決めていくのは非常に残念に思う。 ひとつひとつを見れば可能性がある。もっと上乗せした数値を目標としてもよいのではないか。
事務局	H22 に出した推計人口よりも、H27 の実際の人口は約 300 人上振れした。さらに今回は振れした上に上乗せをして目標を立てた。市としては高い数値目標であると思っている。理想は当然増やしていくことであるが、現実的な内容を含めての目標設定であると、ご理解いただきたい。

委員	事務局の意見に同意する。無理な計画を立てても絵に描いた餅である。
委員	出生率向上の施策を扱っているところはあるのか。
事務局	茅野市地域創生総合戦略で仕事をつくる、交流人口を増やす、少子化対策といった柱建ての中で、人口減少対策に取り組んでいる。
委員	出産可能な年齢の女性数を把握することは重要である。その数値を基に計画を立てている市町村もあると聞く。出産可能な女性数を統計の中に見えるようにしていけば、ひとつひとつの数字と対策が見え、政策が立てやすくなるのではないか。
岩崎地域戦略課長	総合戦略の計画の中では、女性人口のデータ収集や分析にも努めている。全体的な人口については総合計画に位置付け、細分化した政策に関しての人口については総合戦略でやっていく。婚姻率・出生率の推移についても本日は提示できないがデータは把握している。 また生産年齢の女性が転入出している割合、男性との違いといった分析もしている。総合計画の基本構想の中では細かすぎて載せられないが、総合戦略ではしっかりと位置づける。
事務局	(4) 総合計画の推進と進行管理について (資料6) ・・・資料6に基づき説明・・・
会長	5次総の推進と進行管理について意見・質問は。 (意見・質問なし) では説明通りの進行管理をお願いしたい。 以上で本日の議案は終了となる。
事務局	5 その他 次回会議日程 第7回：11月28日(火) 午後6時30分
樋口副市長	目指すべき将来像、基本理念等についてご承認をいただいた。現在それぞれの分野ごと個別計画に取り組んでいただいているが、やはり本日ご承認されたものがひとつの大きな目標であり、一番の肝になると考えている。これをそれぞれの事務局が策定に反映をしていく事になる。 少子高齢化に対する支援や人口増に繋がるものは重要だと思っている。現在は総合戦略が担っているが期限があり、5次総への橋渡しといった位置付けとなっている。子育てについては全ての課が担うべきである。仕事、市外からの移住・定住、安心して子育てをできる環境、医療、福祉等をトータル的に進めていく事が、子育てがしやすく人口増にも繋がる。これらをそれぞれの個別計画にしっかり落とし込み、施策を5次総に入れ込んでいく。次回、ある程度のアウトラインをお示ししたい。
副会長	6 閉会 本日も様々な視点からの意見を頂戴できたことは、必ず5次総に生きてくる。

以上で第6回茅野市総合計画審議会を終了とする。